

スマトラ沖地震・津波を上回る パキスタン大地震の被害

民主党国際局副局長
前衆議院議員



藤田 幸久



停車中のバスが横倒しになるほど地面が跳ね上げた!

3階建ての中・高等学校が倒壊。231人が死亡。まだ30数名が埋もれたまま。

国際協力機構 (JICA) の榎原さん父子が犠牲にあった高層マンション。

10月11日〜17日にパキスタン大地震の現地調査を行った。今回の地震は、阪神大震災の11倍のエネルギーと言われ、家を失った人の数が約330万人、数百キロに及び生活基盤が破壊され、スマトラ沖地震・津波を上回る悲惨な被災地であった。スマトラは巨大シヨベルで町全体が根こそぎえぐられたようだったが、ここではヒマラヤのふもとの村々がつづつ巨大プレスで押しつぶされたよう、ぱっくり割れた山頂や、土砂崩れでえぐられた山腹が点在していた。瓦礫の下には多くの遺体が埋もれたまま悪臭が漂っていた。死者の数も10万人を超える勢いだ。

孤立し被害状況もわからない山岳地が多く、雪も迫り、放っておけば1万人の子供が飢えと寒さで死んでしまい、「第2の死の波が押し寄せる」(アナン事務総長)と国連は警告している。本来は避難の拠点となるべき病院が約千、学校が八千も崩壊したほか、市役所や軍などの関係者多数が死傷したことも被害を拡大させた。

政府や軍による対策も改善され、私たちは5人の閣僚に同行して被災地を訪れる機会を得た。イスラム教のパキスタン政府が初めて国際赤十字(キリスト教の)や、イスラエルのNGO(ユダヤ教)、対立するインドの支援を受け入れたことは画期的で、印パ両国の関係改善の希望を抱かせた。

日本からは緊急援助隊が入ったが、民間機を乗り継ぎ到着が遅れたこともあり、生存者の救出ができなかった。これまで13回海外出動しているが救出例は2回だけで、機動力のある専用機の調達が急がれる。また日本国内の地震に対する緊急援助隊の規模の拡大も必要だ。自衛隊はヘリコプター数機が物資輸送を行っているが、今後は、瓦礫の除去や道路の復旧など得意技を生かした目に見える貢献が望ましいと感じた。

素早く現地駆けつけた日本のNGOは、テントの配布や医療活動など「最も顔の見える援助」で活躍しているが、慣れない現地での物資調達や輸送で梃子摺っている。こうした分野こそ日本大使館やJICAなどの後方支援が望まれると感じた。

一方、阪神大震災10年、中越地震1年の日本で、被災者が未だに仮設住宅で苦しむ姿は異常だ。欧米諸国やスリランカなどでも政府による住宅再建支援が進んでいる。日本でもこうした支援を急ぐべきだと思った。

パキスタン地震への多くの皆様からのご支援をお願いいたします。